

目次

まえがき 1

INTRODUCTION 地震学者がいる組織 13

第1章 3・11が地震学者にもたらしたもの 23

「間違いを犯してしまった」なぜ3・11を予測できなかったのか 地震学者の「反省」 地震学者の総本山 「地物」と「地質」 微妙な壁の高さ 「岡村さん、ごめんなさい」 工学と地震学 「宗教が違う」 津波研究者 反省から学ぶこと

第2章 地震学者と「予知」 67

「予知は困難と認めよう」「予知」と「予測」の違い 地震学者と予知研究 東海地震の「問題点」 地震知事の活躍 地震学者に与えられた強権 「予知は難しい」 予知にナマズ？ 大震法の見直し 調査に見える地震学者の本音 「等身大」をキーワードに 始まった「予知外し」 名を捨てて身を守る 進む「予知離れ」 予知学者たち

第3章 原発と地震学者 119

反省か、言い訳か 食い下がる電力会社 新説まで飛び出す 原発推進派の主張

ものわकारいのいい研究者になるな 立川断層はなぜ見誤ったのか

第4章 過去の記録は将来の予言である 155

あの「予知」はどこまで信用できる？ 地震予測は天気予報とは違う 「劇薬」予測 古文書から地震研究 過去の災害報道はどう読むか

第5章 起こるべき地震に備えて 181

地震村の村長 被害想定づくりの苦勞 確実に起きる地震 首都直下地震の切迫度 首都直下地震の被害想定 まだまだある想定される地震 首都直下地震が起こったら 被害想定はこうすれば減らせる

第6章 次代を担う地震学者たち 215

地震学があえぐ三重苦 地震研のエキスパートたち 「100点を狙わなくていいが、0点はいけない」「日本沈没」と地震学者 震災ショックからの立ち直り 地震予算

あとがき